



第 266 代教皇フランシスコ(アルゼンチン出身 1936-)が、11 月 23 日(土)から、26 日(火)にかけて、長崎、広島、東京で、様々なミーティング、2 回のミサ、要人訪問を精力的にこなされ、核兵器廃絶、原発廃棄などのメッセージ、東日本大震災の被災者への励まし、在日外国人信徒への言葉、日本人への平和へのメッセージを残して、帰国されました。

今回の教皇来日のテーマは「**すべてのいのちを守るため~PROTECT ALL LIFE**」でした。カトリック中央協議会はインターネットで、「核兵器に関するメッセージ」、長崎での「日本26聖人殉教者への表敬」訪問、広島での「平和のための集い」、東京での「東日本大震災被災者との集い」、「青年との集い」などのミーティングの様、長崎と東京でのミサを YOUTUBE で発信していましたので、それをライブ中継で見ることができました。また、52 ページに及ぶミサの式次第を公開していますので、その一部始終を知ることができます。

私は教皇のミサでの説教(英語では homily)に関心がありました。動画では、長崎でのミサは 2 時間 3 分、東京でのミサは 2 時間 30 分という長時間にわたるものでした。私は一部を聞きましたが、ミサの中では聖書が花、説教は実と、受けとめられる感じがします。教皇の説教は、聖書朗読のあとになされましたが、10 分の長さでしたので、とても聞きやすいものでした。

長崎では「**王であるキリストの祭日**」という題で、ルカ福音書 23 章 35~43 節が朗読され、説教がなされました。主イエスと共に十字架につけられた者の一人が**イエスよ、あなたの御国においてになるときは、わたしを思い出してください(23:42)**と言った、この犯罪人の言葉に、私たちも声を合わせるべきだという、ある意味でショッキングな出だしで始まりました。この犯罪人は主イエスが罪なき方であることを知り、沈黙せずに、声をあげたのです。悔い改めた、この罪人に主イエスは**はっきり言うておくれ、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる(23:43)**と言われました。暗い十字架が一瞬に明るい神の国になったのです。神の国は犯罪人も含め、すべての人の共通の目的地である。ゴルゴタは、自分の罪に無関心、無理解な者たちが自己正当化して立っている場所である。無力、失敗、限界ばかりの人生に埋没し、面倒を避けて声をあげない空気がある。26 聖人殉教の筆頭にあげられたパウロ三木の名をあげて、罪なき者の苦しみを共に背負うことが、希望への道になると話されました。

東京では「**すべての命を守るため**」という題で、マタイ 6 章 24~34 節が朗読され、山上の説教の一部から説教がなされました。モーセは山に登った時、主がご自身を明かされ、知らせ、人生の分かれ道に立たされた。モーセは神の声に、注意深く、忍耐して聞き従った。岐路で選ぶのは、自分の出世主義や主知主義による決断であろうか。自由に選ぶと言っても、自由も恵みである。主イエスは体、食べ物、着るものに思い悩むなと三度も言われ、**あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。(6:32)**と、まず、神の国、神の義を求めよと教えられました。神の国の基準とは「慈しみ」である。分かち合い、祝い合い、交わることである。世界は創造主によりいのちと美に溢れている。日本では若者は社会的に孤立しているように見受けられ、過剰な要求がなされ、存在の意味を見出せず、支えられているようにはみえない。不安と競争、利益の奴隷になっている。窒息し、弱まっている。人間のもろさ、さもしさをそっくりそのまま受け入れ、和解し、赦し、引き受けるよう勧められました。野戦病院のように働こうと言われます。

貧しい人、虐げられている人、弱い立場に置かれている人への視線があります。キリストの福音のメッセージを簡潔に、直截に、喜びと希望を込めて語られたと感じました。